

冷蔵庫

- 無駄な開閉を避け、扉を開けている時間を短くしましょう。
- 熱い物は冷まして入れましょう。

省エネ効果の参考(年間)

- 詰め過ぎない(半分に減らす) 43.84 kWh (約 890 円) 減
- 壁から適切な間隔で設置 45.08 kWh (約 920 円) 減
- 冬の設定温度を「強」→「中」に 61.72 kWh (約 1,260 円) 減

▶消費電力量(kWh) = 消費電力(kW) × 時間(h) で表されます。
電気代はおおよそ 1kWh で 20.34 円が目安です(変動あり)。

家電の一般的な消費電力

エアコン 消費電力 1000W	洗濯機 消費電力 500W	炊飯器 消費電力 500W	電気ポット(沸騰) 消費電力 1000W	冷蔵庫 消費電力 375W
扇風機 消費電力 50W	アイロン 消費電力 1200W	掃除機 消費電力 1000W	電子レンジ 消費電力 1300W	自動食器洗い機 消費電力 1300W

照明器具

- 「電球形蛍光灯」や「LED電球」など消費電力が少なく、長寿命のものを使用しましょう。

省エネ効果の参考(年間)

- 点灯時間を1日1時間短縮 白熱電球: 19.71 kWh (約 400 円) 減
- 電球形蛍光灯に取り換え 84.00 kWh (約 1,710 円) 減

旅行などで長時間使用しない時は、プラグを抜きましょう。「待機電力」が減り、節電になります。
※雷時の機器破損防止にも有効。

冷気を部屋中にいきわたらせるよう、扇風機をうまく活用!

エアコン

- 衣服などで調整し、設定温度は夏 28℃、冬 20℃を目安に。
- 室外機のまわりはふさがずに。

省エネ効果の参考(年間)

- 夏の設定温度を 27℃→28℃に 30.24 kWh (約 620 円) 減
- フィルターを月に1、2回清掃 31.95 kWh (約 650 円) 減

テレビ

- 画面サイズが大きくなるごとに消費電力は大きくなります。
- 消す時は「主電源」をオフに。

省エネ効果の参考(年間)

- 1日1時間見る時間を減らす 液晶: 15.00 kWh (約 310 円) 減
プラズマ: 74.57 kWh (約 1,520 円) 減
- 画面輝度を下げる 液晶: 消費電力に影響を与えません。
プラズマ: 53.38 kWh (約 1,090 円) 減

実践しよう! 省エネライフ
参考: 九州電力「よくわかる電気の省エネ」

限りあるエネルギー資源を大切に 一人ひとりが eco と向き合うとき

家計にやさしい + 地球にやさしい = 「省エネ」

一人ひとりの心掛けて
電力のピークを抑える

電力不足による大停電を回避するため、九電は6月半ばまでに具体的な節電計画を作成し、7月から最長9月末まで「電力の15%削減」への協力を呼びかけます。これを達成するには、企業だけでなく各家庭でも、今まで以上に本格的な節電が必要。しかし、各家庭が協力すれば、それがたとえ1時間でも、大きな効果となるはずですよ。

もともと夏は電力消費が一番多い季節。その中でも特に消費量が多くなるのは、人々が活動を始める朝の時間帯と、気温が高くなり冷房を使う13～15時ごろ、そして夕食時です。この時間帯に節電を意識することで、ピーク時の電力消費を抑えることができます。

「これならいいわねー」を
継続しましょう

節電初心者の方あなたにとっては「節電」と言われると、何か特別なことをしなければいけないようで、面倒に感じて

しまうかもしれません。
しかし実際は上のイラストのほか「温水洗浄便座のフタを閉める(放熱防止)」、「エアコンの室外機の吹き出し口を物でふさがない(エネルギー効率の低下防止)」、「入浴は前の人と間隔をあけない」、「早く寝る」といったことでも消費電力を抑えられます。また、炊飯器で8時間以上保温するならば、2回に分けて炊いたほうが節電に。照明は立ち上がりの消費電力が少ないため、再点灯までの間が1分でも、一度消灯するほうが節電になります。

※製品にもよります。

家計も地球も救うワザ
「節電」を習慣に

どういったことが節電になるのか、知っていれば簡単にできることもたくさんあります。最初は意識して実行しなければいけません。これを機に、何か一つでも「習慣」にしてしまえば、あとはその積み重ね。今夏の電力不足を乗り切るために一人ひとりが節電を始めれば、家計にやさしいだけでなく、将来的には地球環境をも救うのです。

資源は無限ではない
いま注目される省エネ

便利で快適な生活を支える電気。日本の家庭の電気消費量は増え続け、この40年間で約2.5倍にまでなりました。身の回りを見渡してみても、今のわたしたちは電気に依存し過ぎていてるのを感じます。

電気が暮らしを豊かにしてきた一方で、発電の燃料であるエネルギー資源の問題や地球温暖化など、地球は大きな問題もかかえています。

日本はエネルギー資源の96%を輸入に頼っていますが、天然ガスは約60年、石油はあと40年

で使い切ってしまうといわれています。これらの化石燃料は何千万年もかかってできたものなのに、人は作られた年月の何万倍もの早さで使っているのです。快適な生活を保ちつつ、エネルギー消費をできるだけ抑える今話題の「省エネ」。もちろん節電にもつながりますが、省エネは本来、電力不足に関係なく見直されるべきことです。地球の問題は他人ごとではなく、わたしたちの毎日の生活が直接関係するもの。エネルギーをただ消費するだけの時代が終わった今、一人ひとりが自らのライフスタイルを見つめなおす時がきているのです。

Column about the electricity.

**これからの地球を支える
自然エネルギー**

自然の力を使った発電が今、各地で進められています。「新エネルギー」とよばれる「太陽光」「風力」「地熱」などの再生可能エネルギーを利用し、二酸化炭素などを出さないため環境にやさしいことが特徴。町内温泉施設でも太陽熱設備の導入が進められています。



日王の湯の太陽熱給油システム